

講演 4



木村 豪雄 先生

桜十字福岡病院 漢方内科

1986年 福岡大学医学部 卒業
同 年 同 脳神経外科 入局
2000年 麻生飯塚病院 漢方診療科 実習医
2002年 麻生飯塚病院 漢方診療科 診療部長
2004年 ももち東洋クリニック 院長
2013年 桜十字福岡病院 漢方内科

はじめに

親の介護に伴う抑うつ状態、嘔吐を繰り返す胃瘻患者において、漢方が驚くべき効果を発揮した症例を紹介する。

症例 1 抑うつ状態に大柴胡湯

症 例：51歳 女性(両親の介護のため多忙)。

主 訴：身体がきつい、抗うつ薬の服用を中止したい。

現病歴：X-3年にうつ病と診断され、パロキセチン塩酸塩20mgを服用していた。服用を中止したいが、中止すると動悸や頭の中がシャンシャンと鳴るため、やめることができない。X年10月に初診。漢方医学的所見は図1のとおりである。漢方医学的に気滯と判断し、さらに心下急を示唆する心下痞硬から、大柴胡湯エキス剤 7.5g/日と芍薬甘草湯エキス剤 2.5g/日を処方した。

経 過：投与8日目には肩こりと背中中の張りは軽減し、気分も安定したが、便通の改善がみられないことから大黃末1.0gを加えた。1ヵ月後には症状の改善がみられたが、2ヵ月後には眠りが浅いと訴えがあり、柴胡加竜骨牡蛎湯エキス7.5g/日(大黃配合)に変更した。しかし、3ヵ月後も改善はみられず、患者が「前の薬がよい」と希望したことから前薬に転方した。X+1年4月頃に、気分の落ち込みと肩こりの再燃がみられたが、処方方は継続して経過観察した。5月には肩こり、気分の落ち込みが改善し、7月には

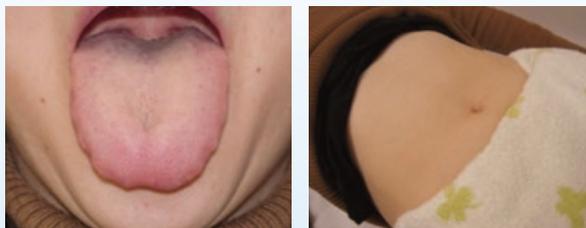
図1 症例1 漢方医学的所見

自覚症状

寒がり 入浴は嫌い 手掌足蹠に汗をかく 食欲はある
不眠 頑固な便秘 肩凝り 背中が張る
心窩部がパンと張った感じ 疲れる(横になると逆に辛い)
SDS:60 STAI:69/69

他覚所見

脈 候：やや沈 やや弱
舌 候：暗赤色 軽度の歯痕 薄い白黄苔
腹 候：腹力は中等度 心下痞硬 両臍傍に圧痛



心窩部の緊張が改善していることから、さらなる状態の安定化を目指して駆瘀血剤を併用するために四逆散エキス剤(7.5g/日)と桃核承気湯エキス剤(4.5g/日)に転方した。8月には精神科医からパロキセチン塩酸塩が減量できる状態といわれた(図2:次ページ参照)。

考 察：本症例は、まさに『勿誤藥室方函口訣』に記載されている心下急、鬱々微煩の状態と考えられた(図3:次ページ参照)。

られた。頭部CTでは前頭葉と側頭葉を中心に脳萎縮を認めた。また、背中には5.5×3.0cm大の褥瘡があった。食事に対する意欲はなく、濃厚流動食を胃瘻から注入すると、3時間後には口からダラダラと流れ出る状態であった。
漢方医学的所見：図5に示す。

経過：大柴胡湯エキス剤 5.0g/日と茯苓飲合半夏厚朴湯エキス剤 5.0g/日を投与したところ、流動食が口から逆流することがなくなった(図6)。

考察(嘔吐を繰り返す胃瘻患者)：嘔吐を繰り返す胃瘻患者に大柴胡湯と茯苓飲合半夏厚朴湯を投与した8例中、

7例で嘔吐や逆流が消失し、その効果は速やかに出現した。さらに、経口摂食が可能となった症例も経験している(図7)。

先に述べたように、胃瘻は「気滞」を引き起こすと考えられる。さらに胃瘻を持つ患者にかかる精神的ストレスは、計り知れないものがある。消化管の蠕動運動を促進させる茯苓飲合半夏厚朴湯に自律神経調節作用を有する大柴胡湯を加えることは、嘔吐を繰り返す胃瘻患者に有用と考える。

図6 症例3 臨床経過

臨床経過

大柴胡湯エキス剤 5.0g/日+茯苓飲合半夏厚朴湯エキス剤 5.0g/日を投与した後より、注入した流動食が口から逆流することはなくなった。毎日軟便。

笑顔もみられるようになり、ときにオヤツ(補助食)なら食べてくれる。体重も増えて背中褥瘡も改善しつつある。



体重 31.2kg

32.6kg

34.9kg

図7 胃瘻患者に対する大柴胡湯+茯苓飲合半夏厚朴湯の効果

	年齢/性	疾患	寝	方剤	効果判定
1	75/M	脳出血後遺症	C2	大柴胡湯 7.5g 茯苓飲合半夏厚朴湯 7.5g	○ 流動食注入後の嘔吐は消失
2	79/M	脳出血後遺症	C2	大柴胡湯 7.5g 茯苓飲合半夏厚朴湯 7.5g	○ 流動食注入後の嘔吐は消失
3	81/F	脳梗塞後遺症	C1	大柴胡湯 7.5g 茯苓飲合半夏厚朴湯 7.5g	○ 痰は多いが肺炎を起こさなくなった
4	89/F	脳梗塞後遺症	C1	大柴胡湯 5.0g 茯苓飲合半夏厚朴湯 5.0g	○ 流動食注入後の嘔吐は消失
5	78/M	パーキンソン病	B2	大柴胡湯 7.5g 茯苓飲合半夏厚朴湯 7.5g	○ 痰は多いが肺炎を起こさなくなった
6	74/F	食道がん術後	C1	大柴胡湯 5.0g 茯苓飲合半夏厚朴湯 5.0g	○ 逆流は消失 オヤツを食べられる
7	89/M	肺炎後廃用症候群	B2	大柴胡湯 7.5g 茯苓飲合半夏厚朴湯 7.5g	○ 肺炎の再発なし オヤツを食べられる
8	89/M	脳出血後遺症	C1	大柴胡湯 7.5g 茯苓飲合半夏厚朴湯 7.5g	× 嘔吐が続き、肺炎を併発する

寝：障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)

Comment

寺澤：消化器内科の先生は、胃がむかむかする、嘔吐を繰り返すような患者さんに内視鏡検査をされますが、異常所見がないと手の施しようがないようです。しかしわれわれ漢方専門医は、便通が悪く、腸全体の機能が整っていないから、逆流してしまうということをわかっています。「欲求南風、先开北窗」という中国の諺があります。これは、「病気を治すには先ず身体の毒素を全部外に出しなさい」という意味ですが、紹介していただいた症例は、大黄によって便通を整えることが有効であることを示していただきました。